

令和2年度 研究外部評価（事前評価）におけるコメントおよび対応

整理番号	テーマ名	評価点	総合評価
20-P4	冷感や風合いに優れた繊維生地の開発	14.1	B
研究期間	令和3年度～令和4年度（2カ年）		
研究概要	生地の冷感性や風合い（肌触り）に起因する物性と生地構造との関係を明らかにし、快適性に優れた生地を開発する。		
外部評価委員のコメント			
<ul style="list-style-type: none"> ・本研究が目指すゴールとそこに至るアプローチを再度よく整理して取り組んでください。今回説明された計画からは漠然とした研究内容しか見えていません。テーマ設定の背景とニーズにマッチした目標となっているか、またそこで必要とされる解決すべき課題は何かを明確にすることによって、具体的な2年間の研究内容が設定できると考えます。 ・糸の種類、密度、組織など非常に多くのパラメーターがあり、生地構造のみで冷感を達成するのは難しいと考えます。様々なパラメーターを分析する手法などを工夫することをテーマとしてはどうでしょうか。マスクの開発はN95のような目的を絞る必要があります。繊維メーカーが独自に研究しているテーマになるので試験場としての立場で出来ることから実施してください。 ・すでに市場で開発されているので差異がわかりにくいです。例えば大幅なコスト改善が可能で広く使用される可能性大といった特徴があるとわかりやすいです。 ・材質の面の検討項目も入れていただきたい。（シルク・ナイロンの冷感をポリエステルで出せないか？）これは有意な知見となり、活用しやすいものとなると考えます。 ・医療用・業務用（食品工場）の感染防止や衛生管理以外の場面でもマスク着用が当たり前になると思うので、この機会に着け心地の良いマスクの開発を進めてほしいです。 ・冷感性・肌触り・着け心地の追求は他分野においても活かされるので良い成果をあげてほしいです。 ・個人の顔の骨格に合わせて自動的に写真からデータを読み取り、立体裁断してマスクが作成できるようになれば良いと考えます。 ・その際は素材・形状・ゴム紐も含めた3点セットで考えて頂きたいです。 ・コロナ禍の中、生活する上で快適に暮らせる物作りができるように考えてほしいです。 ・コロナ禍で環境変化が早いので、ニーズがある内に早期計画で実行することが良いと思います。 ・競合他社が多い用途なので、基礎研究と共に消費者に響く差別化ポイントも必要と感じます。 			

- 国内で生産される織物は高感性のものか、高機能を有するものに限定されてきているため、風合いに優れた織物に関する基礎研究は有益です。ただし、マスクを研究すべきタイミングは今で、R 4（令和4年度）ではないと考えます。もし、制度的に期間がR 1～R 2の特別研究を後ろ倒し（期間をR 1～R 3に延長）等が可能であるならば、直ちにマスクのデザインや感性評価を研究することには価値があると考えます。臨機応変に対応できないのであれば、コロナ対応にはならないと考えます。